



各地域でつながりづくり

地域の課題を持ち寄り、持ち帰る場として各地域の関係者と協力して、地域円卓会議を開催しています。

毎回、様々なテーマを設け、世代を超えた意見・情報交換を行うことで、多様な立場の人が出会い、つながるだけでなく、そのつながりを活かして、新たな取り組みが生まれています。



はんだまちづくりひろばでは「知多半田駅前地域円卓会議」を、2か月に一度開催しています。
これまでに本学の学生や教員がファシリテータを務めたり、地域での取組を紹介したり、若者のまちづくりの思いを応援する機運が高まっています。その中から「U22研究所」という取組が生まれ、若者が政策提言を行いました。

東海市地域円卓会議実行委員会には、星城大学やNPO法人まち・ネット・みんなの広場、商工会議所、青年会議所のメンバーが定期的集まっています。ここから東海市の郷土の偉人、細井平洲先生の「学思行相須(あいま)つ」の教えを実現できる場として、まちづくりの夢を語る「東海市地域大円卓会議」が生まれました。

地(知)のマイスター & 地(知)のフィールド

大学COC事業で進める地域連携教育や地域課題解決型研究に貢献いただける人材やフィールドを地(知)のマイスター & 地(知)のフィールドとして登録しています。大学との連携を通じてそれらの社会的発信や諸活動の活性化に役立てていただくことを目的としています。



「地域研究プロジェクト」の認知症プロジェクトは、東海市で20年以上活動を行うNPO法人Heart to Heartの尾之内直美さんと認知症啓発の課題を共有して、これまで「認知症啓発アプリ」、「認知症啓発紙芝居」などのツールを開発。メディアにも多数掲載されました。

地(知)のマイスター：尾之内直美さん(左から2番目)



地(知)のフィールド：NPO法人チャレンジド

社会福祉学部の演習科目の中で取り組む「サービスマーケティング」では、知多半島の35団体の福祉系NPOと連携して、学生が夏休みに活動を行います。NPO法人チャレンジドでは、美浜町で暮らす当事者の生の声を聞き、学生にたくさんの気づきが生まれています。

Cラボ～大学は地域の中へ、地域は大学の中へ～

2013年10月にCラボ美浜、2015年4月にCラボ半田、Cラボ東海を開設しました。地域連携コーディネータが大学と地域との懸け橋となり、交流活動のサポートを行っています。

Cラボホームページ <http://www.n-fukushi.ac.jp/c-lab>



C・ラボ



美浜町：美浜キャンパス内



半田市：クラシティ3階

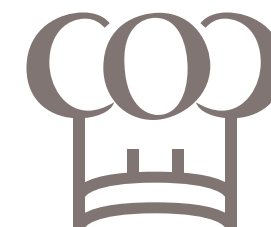


東海市：ソラト太田川3階

詳しくはWebへ



持続可能な「ふくし社会」を創る



ふくし・マイスター

平成26年度採択 文部科学省 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)
持続可能な「ふくし社会」を担う「ふくし・マイスター」の養成

知多半島からひろがるふくしの未来

日本福祉大学が目指すふくし社会

「ふくし」とは、「ふつうのくらしのしあわせ」を表すもので、より多くの人たちに福祉に関心をもってもらい、身近なものとして捉えてほしいという意図が込められています。

「ふつうのくらしのしあわせ」の主人公は、私たち自身です。

「福祉」と聞くと、障害のある人やお年寄り、援助を必要とする社会的弱者を思い浮かべたりするかもしれません。しかし、「ふくし」とは他人事なのではなく、一人ひとりが「我が事」として認識することからはじまります。

日本福祉大学の使命は、一人ひとりが「ふくし」の実現にむけて主体的に行動する社会にしていくことです。日本福祉大学では、「建学の精神」のもと「地域に根ざし、世界をみざす『ふくし』の総合大学」として、地域社会と時代が求める人財を養成しています。本学の原点は、まさに「ふくし」人財の養成を通じた社会への貢献にあります。

教育 地域に関かれた人材育成



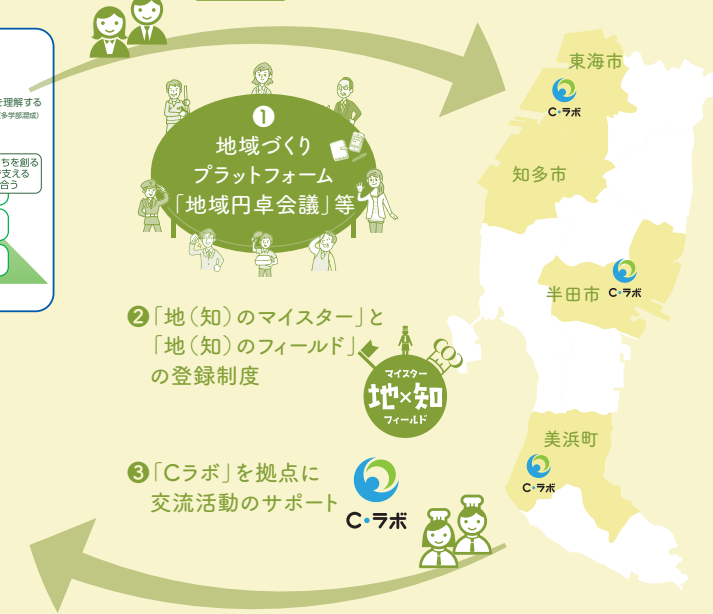
研究 研究成果の地域への還元・共有化

「地域課題解決型研究支援制度」を創設。
「市民研究員制度」を創設。

「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)とは

大学等が自治体を中心に地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献の取組を進める大学等を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的としています。日本福祉大学は、平成26年度、本事業に採択されました(申請数237件、採択数25件)。

社会貢献 地域社会と共に築く



自治体と課題共有

- 東海市**
 - 中心市街地の活性化
 - 多様な地域づくりの課題に応える地域デザインの構築
- 知多市**
 - 中心市街地の活性化
 - 多様な地域づくりの課題に応える地域デザインの構築
- 半田市**
 - 中心市街地の地域活性化
 - 地域包括ケアシステムの構築
- 美浜町**
 - 少子高齢化進行に伴う子育て支援や地域福祉の充実
 - 防災・減災のしくみづくり

COC事業で連携する自治体の首長および本学学長をメンバーとする「日本福祉大学COC協議会」を開催し、事業の進捗報告と外部評価を実施しています。



教育

ふくし・マイスターの養成

地域に関心を持ち、地域課題を我が事として捉え、身をもって解決にあたる素養をもった人財を「ふくし・マイスター」として養成しています。「ふくし・マイスター」は、地域のさまざまな領域の人との関わりや、学内外で地域に関わる活動を通じた学びである「地域志向学習」により養成されます。

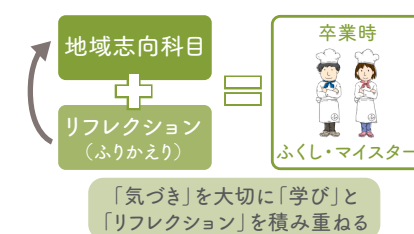
ふくしコミュニティプログラム

すべての学部の1年生を対象に、5つの学習ステップで地域への関心を深め、調査や発表を通して、地域で学習するための方法を身につけます。



「ふくし・マイスター」の認定条件

ふくし・マイスターになるためには、地域に関わる学習を4年間積み重ねます。各学部で指定された「地域志向科目」を10単位20単位以上修得し、毎年リフレクション(ふりかえり)を行った学生を、本学が「ふくし・マイスター」として認定します。



ふくし・マイスターの認定条件

- 毎年リフレクション(ふりかえり)を行う
- 地域志向科目を10科目20単位以上取得する
- 1年次の演習科目でふくしコミュニティプログラムを行う

地域がもう一つのキャンパス

地域課題に取り組む行政やNPO、企業の方の話を聞き、知多半島のふくしの現場に足を運ぶことで地域社会の実際を学びます。



NPO法人りんりんで地域福祉を学ぶ(社会福祉学部)

実践を通して学びを深める

授業と連携しながら地域課題の解決に向けた実践を行います。授業で学んできた専門知識を活かして自ら課題に関わる力を育みます。



半田市亀崎地区の景観づくりに役(健康科学部)



研究

地域課題の解決にあたる住民と教員を支援

地域課題解決型研究支援制度

連携自治体(美浜町、半田市、東海市、知多市)の課題解決に向けた本学教員の研究を支援する制度です。

研究者の視点で地域課題を捉え、それぞれの教員の専門性と知識・ノウハウ等を最大限に活かして研究を行うことで、各地域の課題の解決に繋がります。その成果は地域に還元していきます。



市民研究員制度

住民視点から具体的な地域課題を明らかにし、その解決の道筋を探求する調査や活動に対して支援を行う制度です。

地域課題の解決にあたる住民の調査や活動を支援します。また、その成果を社会に還元することを通して、「ふくし社会」の構築に寄与することを目的としています。



COC・DAY～「ふつうの・くらしの・しあわせ」をみつめるイチニチ～

COC・DAYは、日本福祉大学が目指す「ふくし」の価値を地域と共有し、その実現にむけて学生・教職員と地域関係者がともに学びあう場です。美浜町・半田市・東海市の3つのキャンパスの特色を生かしたテーマで開催するシンポジウムやワークショップを開催しています。



テーマ:「子どもの貧困～地域はどう向き合うのか～」



テーマ:「半田市の景観とまちづくり」



テーマ:「まちを使いこなすことから、まちを育む」